

## 令和5年度第5回小規模多機能型居宅介護事業所 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和5年12月22日（木）10：30～11：40

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 大木健守 小川秀文 太田奈津栄 江波戸勝 平山通雄  
高齢者支援課 須郷

社協	渡辺副会長	局長
紙ふうせん	佐藤	

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和5年度10月・11月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告があったが何か質問はあるか。

須 郷：泊りの再開とはどういうことか。

佐 藤：今まで利用者に泊りの希望が無かったことも有るが、11月から泊りの希望がある利用者があり、看護師が2人になったため日中の職員体制に余裕ができたので泊りを受け入れている。職員の配置が難しい時は、デイや訪問の利用を代替えとして提案したこともあった。

須 合：泊りを断っていたわけではないのか。

佐 藤：断ってはいない。希望があれば受け入れていた。

委員長：職員数は足りているのか。職員が足りないから新規利用者を断ることがあるのか。

佐 藤：新規利用者を断ることは無い。実際に相談も何件か来ている。

局 長：職員が足りない時に手伝ってくれるような方がいればいいが。

大 木：そろそろボランティアが来てくれるといいのではないか。

佐 藤：レクリエーションの手伝いやお茶を淹れたり利用者と話をしてくれるボランティアがいると助かる。

委員長：チューリップ広場での芋掘りは大盛況だった。

佐 藤：利用者も自宅から軍手や帽子等用意していた。とても喜んでた。

太 田：世代間交流事業としてとても好評だった。コンテナ60個以上取れ、給食センターなどにも持っていった。

委員長著：コロナ前はサンマ祭りやそば打ちなど紙ふうせんで推進会議を実施していた。施設の様子も解り、利用者とも触れ合えて良かったが、また検討してもよいのではないか。

太 田：それこそ焼き芋をしながらやってもよいのではないか。

佐 藤：焼き芋も考えたが、焼ける職員がいないので。

大 木：それならバーベキューコンロもあるから協力できる。

太 田：焼き芋だけでなくきつまつ汁とかサツマイモを使った献立で楽しむのはどうか。

委員長：いろいろ協力できるので次年度は考えて欲しい。

大 木：施設でインフルエンザは流行っていないか。

太 田：栄小学校は学校閉鎖になった。

佐 藤：紙ふうせんでは現在インフルエンザに罹った職員、利用者はいない。

太 田：研修に権利擁護、身体拘束とあるが、虐待についての研修を行っているのか。

佐 藤：権利擁護、身体拘束の研修は管理者向けのもので、職員の勉強会でも虐待の研修は行っている。

局 長：虐待防止委員会も立ち上げ、前回の会議で指針を説明させてもらった。紙ふうせんでは身体拘束は行っていないが、身体拘束は完全禁止ではなく家族の同意を得て行うことができる。紙ふうせんには必要ないと思うが、国のひな形に沿って指針を作成しているので、指針には入れてある。

委員長：消防訓練はどのようなことを行うのか。

佐 藤：消防署の方が来て訓練を行い、それを見て講評してもらう。写真にもあるように実際の火を使って初期消火訓練を行っている。

## (2) 外部評価

外部評価についての説明をしながら各委員に記入してもらう。

●閉会のことば 渡辺副会長